



子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰

子どもの読書活動をサポート

優れた読書の取り組みを行っている学校などを表彰する子どもの読書活動優秀実践校の文部科学大臣表彰を受賞した高崎麓小学校の児童らが4月26日、市長を表敬訪問しました。高崎麓小学校では、児童一人当たりの平均貸し出し数が200冊を超えていて、地域やPTA、図書館サポーターなどと連携しながら、読書を促す取り組みが行われています。木下伊織くん(6年)は「古事記や神話など、想像上の生き物が出てくる物語が好き。今年は、去年よりもたくさんのお本を読みたい」と目を輝かせていました。



都城島津邸イベント島津de端午！

武将に変身して歴史に親しむ

子どもらに、楽しみながら市の歴史や文化に触れてもらう「島津de端午！」が5月3日、都城島津邸で開催されました。多くの家族連れらが来場し、手作りのよろいを試着したり、邸内を見学したりしながら、イベントを満喫していました。また、「熊本城おもてなし武将隊」が熊本地震後、初となる県外活動を実施。力強い演舞を披露しました。その後応援メッセージが書かれた旗を前に、復興への決意と支援への感謝を述べ募金協力と呼び掛けると、多くの来場者が温かい声援とともに募金に協力していました。



早水あやめまつり



ぼんちくんへのお手紙展示



災害時の施設利用に関する協定の締結調印式

災害時の支援体制を強化

災害時の施設利用に関する協定を、南日本酪農協同株式会社と4月13日、市役所で締結しました。大規模災害時に、沿岸被災地などへの支援拠点となることが想定される本市。協定締結により、ボランティアや支援部隊などの活動を円滑に実施するために、同社の施設が利用可能となりました。

心温まる手紙をありがとう

都城市PRキャラクター兼PR部長 ぼんちくんへの手紙や贈り物など、約50点を、4月28日まで市役所市民サロンで展示しました。「ぼんちくん大好き」と書かれた手紙などを見て、大はしゃぎのぼんちくん。市民の皆さんと一緒に踊ったり、遊んだりできることを楽しみにしていました。

笑顔の花も咲いたあやめまつり

第21回早水あやめまつりが4月29日、早水公園で開催されました。天気に恵まれ、約42万本のあやめを見ようと多くの家族連れらが来場。民俗芸能のジャンカン馬踊の披露や、ぼんちくんによるショーのほか、恒例のあやめ音頭総踊りなどが行われ、参加者らは青空の下、祭りを楽しんでいました。

逃げるニジマス、追う子どもら

関之尾緑の村プールで5月5日、幼児から小学1年生までを対象にした、ニジマスのつかみ取りが開催されました。定員を上回る110人が参加。子どもらは、歓声と水しぶきを上げながら、勢いよく泳ぎ回るニジマスを追いかけていました。また、イベントの終了後には、地元のボランティアガイド「関之尾むかえびと」による紙芝居も披露され、子どもらは地域の歴史や文化に触れていました。鎌田笑舞さん（三股町）は「元氣なニジマスを捕まえた。みんなで食べるのが楽しみ」と、ちびっ子が主役のイベントを満喫していました。

ちびっ子限定ニジマスのつかみ取り



愛着のあるSLをきれいに

今町鉄道記念公園で5月18日、園内に展示してあるSLの清掃作業が行われました。実際にSLの運転や整備などを行っていた、国鉄やJRの退職者を中心とした都城地区SL愛好会が、平成24年から毎年実施しているこの取り組み。今年は10人が参加し、周辺の草取りや竹などを刈った後、昔を懐かしみながらSLを丁寧に磨き上げました。会長を務める今村壮二さん（菓子野町）は「愛着のあるSLがきれいになり、清々しい気持ちになった。多くの人に力強いSLの姿を見てほしい」と額に汗を浮かべていました。

今町鉄道記念公園SL清掃



熊本地震被災地支援の取り組み

4月に発生した熊本地震の被災地を支援する取り組みを、本市でも市民と行政が一体となって実施しています。発生後すぐに、人命救助を行う緊急消防援助隊を被災地へ派遣。また、断水に対応するため、応急給水にも駆けつけました。その後も、被災建築物倒壊の危険性の判定や、

災害廃棄物の処理など、状況に合わせて随時、職員を派遣。市民の皆さんから寄せられた救援物資も、被災地へ届けました。

ボランティア活動も積極的に行われ、被災地での炊き出しや、本市出身の学生らによる募金活動など、心温まる支援が実施されました。

一日も早い復興を目指して、引き続き必要な支援を実施していきます。

緊急消防援助隊の派遣



炊き出しのボランティア



救援物資の配送



募金活動で集まった義援金の贈呈





九州芸術祭文学賞最優秀作
「黒い湿った土のにおい」作者

野見山 のみやま
潔子さん



都城に住んでいるからこそ書けた小説 漫画「ぼんちくん」は、方言の先生

中央文壇への登竜門ともいわれる歴史ある賞、第46回九州芸術祭文学賞最優秀作を書いた野見山潔子さん（五十町）。受賞作は、芥川賞に最も近い文芸誌とされる「文藝界」に掲載されました。同誌は、昨年の芥川賞を受賞した又吉直樹作「火花」が掲載されたことでも知られています。

子どもの頃から、ひそかに『空想日記』を書くのが好きだった野見山さん。文章を書くきっかけとなったのが、昭和60年ごろ都城市立図書館で開催されていた文章講座でした。

その後、夫の転勤で福岡県へ引っ越し、カルチャーセンターの文章教室で本格的に学び始めました。そして、文芸同人誌の「笛（本市内・廃刊）」や「季刊午前（福岡市）」の同人として、作品を発表するようになりました。

同人誌仲間の勧めで、九州芸術祭文学賞へ応募。平成9年度には宮崎地区優秀作にはじめて選ばれ、その後も3回にわたり選出されました。

執筆するに当たって心掛けたのが、地元を舞台とすること。特に、今回の受賞作では、都城を舞台にしました。福岡県出身の野見山さんが、リアリティーを出すのに苦労したのが方言でした。そこで参考としたのが、みやこのジョーさんの漫画「ぼ

んちくん」。受賞作中の会話に、「ぼんちくん」の方言を照らし合わせて都城弁に直していきました。

野見山さんには、自身が「物語が動き始める坂道」と呼ぶ、お気に入りの場所があります。「そこで愛犬とたたずんでいると、登場人物が生き生きと動き出す」と、楽しそうに話します。

「書き上げた小説は、どれもかわいい子ども。今回の受賞作が『文藝界』に掲載されたことは、自分の子どもが褒められたようで、少しだけ誇らしい。これからも小説という長い道のりを、また新たに一歩ずつ歩んでいきたい」と、新作の執筆に向けて目を輝かせていました。





中心市街地（まちなか）の活性化や魅力度アップを図ろうと奮闘している、都城市中心市街地タウンマネージャーの二宮啓市さん。今回は、これまでの取り組みと今後の展望を紹介します。

賑わいづくりへの意識の高まり

昨年8月に着任して以降、まちなかに賑わいを創出するため、空き物件を再生し、新たな魅力を創造する「リノベーション」によるまちづくりを進めています。

私の役割の一つは、まちづくりを自分たちで考えて実践する人を増やすことです。そのため、外部講師などを招いたセミナーや、まちなかを歩いて隠れた魅力を発見する「まちあるき」などを実践。まちづくりに一緒に取り組む仲間づくりを進めてきました。

回を重ねるごとに共感してくれる人は増え、参加した人たちのまちづくりへの意識も高まってきていると感じています。

リノベーションを実践した店舗がオープン

4月に、リノベーションの手法を用いた店舗4件が、まちなかにオープン。店舗のオーナーの中には、今まで開催したセミナーなど



に参加した人もいて、30代の若い経営者がほとんどです。実際に店舗が稼動することで、若い人たちに「自分たちも何か始めてみよう」という機運が生まれ、また、空き物件を所有する人たちの意識も変わってきたように感じます。

賑わいづくりのこれから

今年10月に、都城市でリノベーションスクールの開催を予定していて、準備を進めています。実際にまちづくりに取り組んでいる人たちの意見に、外部からの視点を加えることで、変化が生まれるのではないかと期待しています。

また、イベントなどと組み合わせ、まちなかを回遊したくなる仕組みづくりにも取り組み、賑わいづくりを進めていきます。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174



盆地生まれの元気をいただきます！



セロリのおひたし

一日に5皿の
野菜料理を食べよう！

※一人分19Kcal、塩分0.2g



セロリに含まれるカリウムは、高血圧の原因となる体内の余分なナトリウムの排泄に役立ちます。ただし、腎臓の悪い人は、取り過ぎに注意が必要です。

●材料（4人分）

セロリ……………300g	A	みりん……………小2
塩……………少々		酒……………小1
だし汁（かつお）…2カップ		薄口しょうゆ……大1
削りかつお節……適量		

●下準備

セロリ…葉を外して筋を取る。5cmの長さに切ったあと、5mm幅で縦に薄く切る

●作り方

- ①だし汁とAを鍋でひと煮立ちさせ、完全に冷ます。
- ②鍋に湯を沸かし、塩を入れる。セロリをさっとゆで、色が変わったら取り出し、冷水で良く冷ます。
- ③水気をよく切り①に入れ、冷蔵庫で2～3時間漬ける。
- ④器に盛り、削りかつお節を飾る。



セロリは、葉をつけたまま保存すると茎が乾燥するので、分けて保存しましょう。株の外側の固い部分は煮込み料理、内側の柔らかい部分はサラダなどに適しています。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765